

第 19 回新しい資本主義実現会議 意見書

2023 年 6 月 6 日

株式会社経営共創基盤

IGPI グループ会長 富山和彦

- ・労働市場改革、すなわち日本型終身年功男性正社員偏重モデルからの脱却は、長期停滞に苦しんできた日本の経済社会最大の桎梏からの脱却
 - －様々な停滞企業、不振企業、不祥事企業の根本病巣はここ（組織の同質性、固定性、排他性、硬直性）にある⇒サイレントキラーの芯にやっと到達
 - －少子化問題も同根

- ・同じコインの表裏の関係にあるのが、産業、企業、個人（スキル、能力）のすべてのレイヤーでアップデートを継続する力、すなわち新陳代謝力を異次元に高めること
 - －旧来の日本型共助モデル（「個別企業内の終身年功共助モデル」）を偏重する限り、再編も退出も起きず、イノベーションに対応する本格的な新陳代謝は起きない
 - －産業、企業の退出率が低いままでメガベンチャーがたくさん生まれるような虫のいい話は絶対がない
 - －産業、企業横断的で、生き方、働き方、ジェンダー等の多様性に中立的、かつ個人に直接手を差し伸べる「社会的共助モデル」への転換は急務

- ・これだけの大転換の実行には、当然、実務的に大きなストレスや軋轢（最近の税制適格 SO の拡充に伴う信託型 SO の実質解消問題も、スタートアップエコシステムのグローバル化には避けて通れない改革だが、短期的には大きな衝撃を生む一つの例）や懸念が生じるが、産学官労がそこに真正面から挑まなかったことが、失われた 30 年の実相。ここは皆が覚悟を決め、短期的な痛みや不安を乗り越えて、断固として改革を完遂しましょう。何よりも将来世代のために。